

刊夕日四十二月七



日刊 昭和四年七月二十五日
発行所 石城郡赤井第一小學校
電話 一五九
定価 一円
代金 二円
送料 二角
新刊 石城郡赤井第一小學校
発行所 石城郡赤井第一小學校
電話 一五九
定価 一円
代金 二円
送料 二角

夏季休暇中に於ける 赤井第一の實施事項

父兄にも大賛成の諸行事

石城郡赤井第一小學校では來る夏季休暇に於ける郡内各校の申合せに準じ職員會に於て決した實施事項の特筆すべきものは勤勞と共同の校訓に則り休暇中の好日和を見て全校生徒一千名に使用されてある五百の机を第六以上四百五十名で同校の夏井川の清流に運び各自持参の木灰で汚れを洗ひ休暇明けに生れかほつた様な机に臨ましめること次で村内應召道士道家族の勞力不足に對し各部落毎に設けてある校外生活指導擔任教師の引率で日章旗を先導にランパを奏しつゝ往復する午前七時か

小名濱港に於ける 鯉の水揚げ卅五萬圓

近年にない大豊漁の活況

小名濱漁港に於ける本年の鯉の水揚げの活況は既報の如く終期までに少なくとも四、五十萬圓に上るであらう豫想であるが最近に於ける大漁は去る十九日三萬尾、二十日四萬尾を算する盛況で當日までの累計三十五萬餘圓に達し昨年漁期中の三十一萬六千圓を既に突破したので此の分では記録的な六十萬圓の水揚げ高に上るであらうと見込まれ昨今の相場は砂つき六、七匁と云

小學校の 暑休の行事

石城郡下の小學校では夏季休暇中の児童の心身鍛錬につき實施事項を左の如く申合せた
▲學校の直接指導期間
八月一日から十五日まで
▲學校の直接指導期間
八月一日から十五日まで
▲自修指導期間と定めて實施の場所を學校 神社佛閣

海濱その他適當な地を選び而して其の事項は集團勤勞作業 軍事教練 武道修練 体操その他の試合 見學鐵鍊旅行(以上)

奇特な運轉手に 感謝狀

石城郡小名濱町満屋經營業合自動車同町江名間の運轉手本都保善(三)君は江名町中の作から大字江名保館に通ふ幼童その他生徒が登校時に遅れたとき無料で乗せて呉れたので隣保館助成會と児童の父兄三十八名から其の奇特を感謝され表彰狀を贈られることになつた

石城共販米 五、六錢高

石城郡販米に於ける今月下旬初めの依米定期共販は出荷二千九百九十九俵で十數名の競争入札の結果平倉庫の一二二俵が十四圓十六錢を不調にされた外全部取引されたが前回に比すれば通じて五、六錢上りで米の普通値は十四圓台となり尚ほ先高を豫想されてある

支那單語

雨傘は同じく雨傘と書いてニサン、蠅のことは洋傘でヤンサン、釘は釘でテイソツ、鋸は鋸でソウ、ナイフはナイフでフイ、ツ、匙は匙でチウイ、ツ、鉈をパオツと稱ふ

平第三唱歌會

平第三小學校では来る二十六日午前九時から同校講堂に於て唱歌遊戯會を開催する

戰地の便り

謹啓、初夏の候ますます御清榮の段寄賀候、私任地に到着以來頗る元氣旺盛にて其の務めに服して居ります、御安神下され度候、當時は炎天やけつ様な暑さでありませうと軍友の何れも志氣ます、旺盛にて皇軍の使命に邁進致して居ります、市より戴きました彼激の御言葉に打たれ感涙は今もつて耳に残る歡呼の聲、戦に浮ぶ多數の御見

激勵の御言葉に 打たれたる感激

平市古銀治町出身 佐藤 信枝
送りと共に心をなれず一意思心最後まで身命のあらん限り御奉公に萬全を期する覚悟であります、何卒一層の御指導御鞭撻の程を御願ひ致します、貴家皆々様の御健勝を御祈り致します陣中の御便りまで、敬具、

八幡小路家庭防 火群の反省座談

平市八幡小路の家庭防火群では過ぐる防空演習に於ての操

満支の視察から (25)

七月五日 快晴
夜來の強雨カラリと晴れ暑熱甚し。午前九時のバスに便乗、旅順に至る、沿道屋ヶ浦、玉の浦等あだかも神戸を中心とした若屋、須磨明石の海岸を眺めさせる風景絶佳。一時間四十分にして旅順港の全貌を俯瞰し旅順を取巻く山々を一望の内收む。運轉手君の旅順攻

日夜軍務に精勵

石城郡上野野村出身 鈴木 木榮
番中御伺ひ申し上げ候、酷暑厳しき折柄御一統様には如何遊ばされ候や御伺ひ申上げ候、降て小生儀變りな日々軍務に勤み居り候へば憚ながら御放念下され度候、益々御奉公の誠を盡す覚悟に御座候、本年の暑さは殊にきびしき由に候へば折角御自愛なされるやう御祈り申し上候、 敬具

軍用保護馬檢定

平市及び石城郡下に於ける本年度の軍用保護馬の檢定は来る八月十一日から施行されるが日割は左記の如くである
▲十一日 植田、警崎、十二日 日高、十三日 渡邊、錦、十四日 勿來、十五日 山田、川部(以上は植田町市場に於て) 十七日 入野、上野

收し七教室を増築することになり来る夏季休暇中に於て舊校一棟を解体せしむに新敷地へ引き移し其れに於て講堂兼用の新校舍を建設する計畫で目下新敷地の整地を急いでいるがこの總工費は一萬五千圓を要する由である

赤井校狹溢

一萬五千圓で増築 石城郡赤井村では日曹炭鑛業所が開坑されて以來第一小學校の收容兒を増加し現在同炭鑛から三百名の通學あるもの(毎日引いて二、三名づつ)の入學兒を見てゐる現状で教室に不足を告げ隣接にある

日曹の開坑で

字旗掲揚のため敵も萬國公法を遵守し砲撃せず爲に存置せしとか、租米なる民家で三間に區別されて一室が史的會見の場所である、中央に極く粗末なテーブルがある、それは戦傷者の手術台であつたと云ふ。二〇三高地に至る、バスを捨て、三丁程山に登る、それが旅順開城の因をなした餘りに有名な二〇三高地である此山一つの爲に一萬有餘の尊き血を流した金山これ血、金山これ血。のちに乃木將軍名づけて爾靈山といふ、中腹に碑あり、乃木保典戦死の場所である、運轉手君の熱帯は三十分及び

内科、小兒科
大森醫院
醫學士 大森 勇
入院 應需
平市南町 電二五八番

七月六日 晴

旅順市内を一巡、旅順市は人口三萬餘、商工都市にはあらず、アカシヤの並木整然とした聖地として相應しい街である、旅順上何時までも聖地として静かで嚴かな街であつてくれ、巡拜五時間にして大連に歸る。大和田彌一君が公用で新東京から来た、大和ホテルに泊つてゐた神田久太郎君が訪ねて来た、神田君は福島市出身、柔道七段、旅順要港



なまより業者の製法と出荷

三陸、常磐ものに
 初夏の魚市場に於ける人氣の中心である三陸及び東海道方面の鯉の生利(なまより)は大體七月の解禁を境として一段落を告げるのが例である、その頃になると鯉群も常磐沖の方面及び三陸の金華山沖に移動して行く従つてこれに伴ふ加工製造品の生利(なまより)も同方面に活況を呈するやうになるのであるが此の時期になると最早や生の鯉は市場が近海ものに満腹したる後なので餘程の好條件、例へば時化などのない限りは連日大量を市場に上せられる品を好値でもつて消化することは至難であることは云ふまでもないところで常磐及び三陸方面の生利(なまより)業者はこゝ数年この方東京市場へ出荷したる結果が餘り香ばしくなかつたが爲めに昨今では出荷手控への傾向が濃厚であるのだがこれは此の地方の生利(なまより)業者の製法及び出荷の方法に幾多の難點があり、これが障害となつて東京市場に於ては活躍し得なかつたものである、今後それ等の習習を打破して新しい様式を取入れ積極的な進出策を講ずるならば本格的の景氣が加はり兎角鮮魚が激進され勝ちなる折だけにその躍進は保證されて充分な採算が立つものと見られてゐる、右について東京築地魚市場などが生利(なまより)の生産出荷に對して語つてゐるところを上げると大體次の如きことを述べてゐる、

▲第一には、先づ三陸、常磐方面の生産にとつては何人と云つても多年の経験を經とし、地利的條件を練とする三陸生利(なまより)の持つところの優越性は最大の強敵であるから三陸方面の品の出廻り状態を常に注意してゐてほしい、

正確な体温計
 なる寒暖計(各種)
 計量器指定販賣
 平市五丁目角
 山野邊藥局

肉の御用命は
三三三屋
 牛も豚も優良品の自慢

お醤油はヤマフル
 醤油、味噌、たひら正宗、鯉節食料品

明治生命警城代理店

山崎與三郎

山崎合名會社
 電話 本営業部 二一〇番
 本店部 二七〇番

内科、小兒科
 外科、花柳病科
 耳鼻咽喉科
 レントゲン科
 平市田町 電話五一三番
高久病院
 院長 醫學士 高久忠

涼味そゝる
 夏物洋品愈々進出
 スマートなカンカン帽子
 可愛らしいお子様帽子
 婦人・子供清涼着
 その他色々陳列
 つるや 平四 電140

新時代の要求
 経済的を御便
 宜御用命を
 願ひ致します
 平市南町 電話三〇七
平看護婦會
 會長 清野キヨ
 御手不足の御家庭
 輕い御病人の付添
 妊婦産婦の御家庭

根本 婦人科醫院
 平市南町
 根本 莊次郎
 根本 貞雄
 電話 三四番
 (入院隨時)

和洋鋼鐵、金物問屋
益屋商店
 九九・九電

病室増築、手術室完備
 産科 醫學博士
 婦人科 **五十嵐雄二**
 平市新川町 電話三六九番

國民精神總動員
 日本國民必見の書……
 内閣情報部發行
寫眞週報
 1部10セント
 お取次致して居ります
 平市 西村屋藥局 電三

診療科目
 一、齒科一般
 保存科、補綴科、鑲嵌架工科、齒列矯正科、小兒科、齒槽膿漏科、
 一、口腔外科
 一、レントゲン科
 平市田町(松月堂向) 電話五〇九番
中野齒科醫院
 院長 日本齒科醫學士 中野惠次
 日大醫學士 齋谷伍郎
 主任 佐藤重義

カバと洋品類

 (話電) 屋砂眞 (前驛市平) (り通道新)

専門 皮膚泌尿科
 性病科
 診療時間 午前八時より午後九時まで
 醫學博士 江尻伊三郎
 平市田町 電話六九二番
院醫尻江